

防衛省防衛大臣

岸 信夫 殿

—申入書—

私たちは、1987年に国家的不当労働行為の下で強行された国鉄分割民営化に反対し、その真実を暴き出し、全国・全世界の労働者と共に、労働運動の復権を目指し闘う国鉄千葉動力車労働組合及び支援の労働者です。

ミャンマーの労働者・民衆は、ミャンマー国軍による2021年2月1日のクーデターとそれに引き続く大虐殺に抗し、文字通り命がけで今も闘い抜いています。私たちはこのミャンマー人民、取分け在日のミャンマーの仲間たちと共に力を合わせ闘い抜くことを決意しています。

そして、このミャンマー国軍の最大の支柱となり、ミャンマー人民虐殺に深々と関与する岸田政府、防衛省そして日本ミャンマー協会に対し、強い憤りと共に徹底弾劾の意を表明します。

また貴職は、2月16日の衆院予算委員会で、「敵基地攻撃能力」の保有を巡り、「自衛隊機が他国領域に入って軍事拠点を爆撃する」ことを「排除しない」と公言しました。この考え方は、暴虐の限りを尽くすミャンマー国軍支援と軌を一にするものと言わざるを得ません。心底からの怒りをもって弾劾します。

上記を踏まえ本日は、貴・防衛省に以下の2点を強く要請するものです。

- 一、 日本財団を介し、「民主主義国家における軍の在り方」を伝えるなどと喧伝し2014年に始まった「日本ミャンマー将官級交流プログラム」に関連する一切の企画を廃棄されたい。  
また現在も行われているミャンマー国軍将官などへの各種教練を直ちに中止されたい。また教練終了後に帰国した将官たちが、今どこに配属されているかを明らかにされたい。
- 二、 防衛大学校や各自衛隊幹部学校は、ミャンマー国軍の士官候補生などを「留学生」として受け入れている。この施策を直ちに中止されたい。

2017年に上記「日本ミャンマー将官級交流プログラム」に参加した国軍幹部は、「ミャンマー国軍は日本によってつくられた」と「謝辞」を述べています。

ミャンマーの人々に対し、無差別な爆撃を繰り返し、言語に絶する残虐行為をはたらく国軍との癒着を続けることは、もはや何人たりとも容認することはできません。

以上

2022年3月1日

千葉県千葉市中央区要町2-8 DC 会館内  
国鉄千葉動力車労働組合 国際連帯委員会